

特集

# インフラの ストック効果 ～ストック効果の最大化、見える化～

## 【特集の趣旨】

インフラ整備の効果には、フロー効果とストック効果があります。フロー効果とは、公共投資の事業自体により生産、雇用、消費等の経済活動が派生的に創出され、短期的に経済全体を拡大させる効果であり、ストック効果とは整備された社会資本が機能することによって、整備直後から継続的に中長期にわたり得られる効果で、安全・安心効果、生活の質の向上効果、生産性向上効果があります。

インフラのストック効果の最大化を図ることを基本理念とする第5次社会資本整備重点計画が令和3年5月に閣議決定され、国土交通省では、この計画を踏まえ、「主体の総力」、「手段の総力」、「時間軸の総力」の3つの総力を挙げて社会資本整備に取り組むことで、ストック効果を最大化させていくこととしています。

ストック効果を最大限発揮するためには、ストック効果を積極的に幅広く把握するとともに、「見える化」し、効果を高める工夫と有機的に連携させることが必要であります。また、このため、これまで行ってきた発生ベースでの便益の総量の把握にあわせ、ストック効果が具体的にどう発現しているかという観点から、発現した多様な効果を客観的・定量的に把握するとともに、こうした効果を地域に対して分かりやすく伝え、「見せる化」することが重要です。

今号の特集では「今後の社会資本整備の方向性とその効果の見える化」について概説するとともに、地方整備局・地方公共団体で取り組んでいるストック効果の「最大化」や様々なストック効果を把握するための「見える化」等の事例について紹介します。

特集担当編集委員 大胡 賢一  
(国土交通省 道路局 国道・技術課 企画専門官)



奈良公園の吉城園周辺地区に位置する「旧奈良県知事公舎」をリノベーションした宿泊施設（本号P21～23「奈良公園における低未利用施設の利活用」より）





## CONTENTS

今後の社会資本整備の方向性とその効果の見える化	8
仙台都市圏高速環状ネットワークの整備効果	12
中国横断自動車道 尾道松江線 全線開通10年の整備効果	15
坂川の清流復活から始まる「かわまちづくり」	18
奈良公園における低未利用施設の利活用	21
大師河原貯留管の整備効果	24
我が国の酪農・畜産を支える釧路港	27
漁業者の高齢化に対応した係留施設の改良	30